

問

意欲あるメロンの振興策を考えて

町長 次の町長に託してもらいたい

問 訓子府町にとって町

民の評価の高い訓子府メロンは、ここ数年生産農家の減少に伴い生産量も減少して町内の販売もままならない状態だ。

生産の拡大に向けて知恵を絞るべきだと思いが、来年度の振興策の考えは。

町長 夜間町長室に振興会三役の方々が来て生産者の高齢化や後継者

不足など農家を取り巻く環境は厳しいが、町を代表するブランドである訓子府メロンを何とか守りたいと3点の支援要望が出された。

メロンPRチラシの作成と種子や蜂箱代への支援である。

問 画期的な支援策を考へ振興策をやるべきだと思いが。

町長 振興策については素直に申し上げて難し

いと思う。

生産者と意見交換もしているが、今は増える要素が全くなく、振興会と確認しているのは親の世代が作っているメロン栽培に関心を示している息子世代もいるが、生産増加に繋がっていないのが正直なところだ。

問 それではダメで増やさなければ。

町長 栽培農家の家族で継承していくしかないという気持ちでいるとなくなってしまう。

メロン農家を増やすための施策を農家の方が考えるのではなく、町民と行政が一体となって考えなければメロンは増えない。

大事なメロン栽培町の残す気持ちは感じられない！

町長 増やすことはなかなか難しいと先ほどから答えている。

なんとか手間のかからないような形で作れないか生産者と中身の検討はやっている。

問 園芸作物やメロンに特化した地域おこし協力隊の採用を考えないか。

町長 地域おこし協力隊に関しては少しリスクがあり、さらにメロンで生計を立てている方がいないことが胸を張って進められない一番大きな要因だ。

問 地域おこし協力隊と提案したのは、その方にメロンを作ってほし

いではなく、メロンの栽培を専門として振興してもらおう係として来てもらいたい。

名産品のメロンを今生産している農家の方にプラスして、少しでも増やしていける体制を取ることは、将来の訓子府にとって非常に大事なことだと思う。

町長 メロンは信頼もありファンが多いのは事実。しかし、現実は大変厳しいものがある。50年経って、状況が

違う。

答弁に納得できないならこれ以上は申し上げられない。

残さなければならぬ意識は持っている。次の町長に託してもらいたい。



よご 湖 龍三 議員



毎年生産量の減っているメロン

このほかに「レクリエーション公園シバザクラの整備について」の質問をしました。



余湖議員の一般質問を視聴できます